

就活キックオフ!

学生が企業取材 1Dayインターン


 Z世代の胸のうち

ガクチカ 作りの一助に

介護・福祉に特化した有償ボランティアアマチュアマッチングサービス「スケッター」を運営するプラスロボ（東京都港区）は11月18日、学生向けの就活イベントを開催。学生が介護・医療法人の担当者取材しその魅力をPRするプレゼンテーションを行った。参加した約30名の学生達は介護・医療の魅力を深掘りしていった。

有償ボラのプラスロボ企画

このイベントは参加学生を企業広報担当とする1Dayインターンとして実施。発表するといふもの。

このイベントは参加学生を企業広報担当とする1Dayインターンとして実施。発表するといふもの。プレゼンでは多くのグループで共通して、プライベートの充実、スキルアップ可能な環境、が企業の魅力として挙げられた。投票の結果最優秀賞に選ばれた新富士病院グループの発表では、「キャリア制度が整備されており、さまざまなことに挑戦できる。それをフォローしてくれる上司がいる」と成長に向けた道筋が整っていることを説明。



▲ワイグッドケア山崎社長（左）とプラスロボ鈴木社長（右）

今回のイベントには、採用活用に関わる企業担当者も多く参加している。今の学生は企業に何を求めているのか。企業担当者に話を聞いた。

自己実現や社会性 企業を選ぶ観点に

今回のイベントには、採用活用に関わる企業担当者も多く参加している。今の学生は企業に何を求めているのか。企業担当者に話を聞いた。

山崎保氏

（ワイグッドケア社長）

今の学生は自分の目標を実現したい、個性・特技を發揮したい、という気持ちがある。一方で「介護職になったとしたら最終的には施設長になる」というビジョンしか思い描けず、自身の力を發揮する機会がないと考えています。そのギャップが課題だと感じました。

村井隆宏氏

（社会福祉法人元気村グループ）

加えて、保育所や食費の支援、スポーツ観戦チケットの配布やテーマパークの割引など、仕事もプライベートも充実できる点を魅力に挙げた。

「コロナ禍も落ち着き、施設ではボランティア受け入れなどの動きも活発化している」とプラスロボの鈴木亮平社長は言う。

コロナ禍の影響で、「学生時代に力を入れたこと（通称、ガクチカ）」を語れないという学生も多い。イベントをきっかけにインターンやコラボレーション企画に発展すれば、ガクチカの筆頭エピソードになる。企業側では学生に訴求できるだけでなく、自法人の新たな魅力の発見につながることを期待できる。

グループ事業推進部 サブマネージャー）

学生の生活スタイルに理解を示し、それに合わせた働き方を提案できることが重要なポイントだと思えます。その点、地域に根差した社会福祉法人などは学生の望む働き方と親和性が高いのではないのでしょうか。

芳賀正己氏

（一般社団法人新富士病院グループ 東京本部本部長）

大学教育の一環で、SDGsに代表されるような課題を扱うことが多くあるようです。自分の働く環境について重視するのはもちろんですが、女性の活躍推進などSDGsの達成、社会貢献といった観点で企業の活動が見られていることを感じています。



▶取材した内容をまとめる学生達。学生ならではのフレッシュな視点や好奇心で企業の魅力に迫った